問四 **問一**の選択肢ニ・ホ（左記）の傍線部の意味をそれぞれ答えよ。

ニ　それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。（『竹取物語』）

ホ　都へと思ふをものの悲しきは帰らぬ人のあればなりけり　（『土佐日記』）

ニ＝　　　ホ＝

問五　傍線部の「なり」の意味として、最も適切なものを次の中から選べ。（**問三**より）

聞き入れさせ給はざんなりと承るを、…

A　ラ行四段動詞
B　形容動詞語尾
C　断定の助動詞
D　伝聞の助動詞
E　推定の助動詞

問六　二重傍線部の助動詞「なり」のうち、次の中から一つだけ他と意味の異なるものを選べ。

ア　祈るなり　　イ　所なり　　ウ　あなれ　　エ　来たるなり　　オ　親なり

問七　傍線部ａ・ｂと文法的に最も近いものを、次の中からそれぞれ一つ選べ。

この里にすみふりし飛騨人（＝大工）なり[a]。
やや寒うなり[b]はべるには、…

1　かたはらいたければ書かぬなり。
2　「静まりぬなり。入りて、さらば、たばかれ」とのたまふ。
3　長押(なげし)の下(しも)に人々臥して答(いら)へすなり。
4　「出でずなりぬ」と聞こえたまへば、慰みて起きたまへり。
5　をかしき節もなくのみぞあなりし。

ａ＝　　　ｂ＝

問八　「かしこにはしはべるなるに、…」の傍線部と文法的に同じ意味の「なる」「なり」を含む和歌を、次の中から一つ選べ。

イ　厚氷くだきし跡の見ゆるなり山下清水くむ人やたれ
ロ　世の中のあはれなるには大空の雲も涙を惜しまざりけり
ハ　嘆けとて月やはものを思はするかこち顔なる我が涙かな
ニ　世にふれば又もこえけり鈴鹿山昔の今になるにやあるらん
ホ　あしびきの片山きぎすうちはぶき妻ごひすなり春のあけぼの

問九　傍線部の文法的説明として最も適当なものを、それぞれ次の選択肢の中から選べ。

「仏、あはれとおぼしめしたりける なめり(A)」とぞ人言ふ なる(B)。

①　当然　②　伝聞　③　完了　④　回想
⑤　詠嘆　⑥　断定　⑦　婉曲　⑧　反実仮想

A＝　　　　B＝

問十　傍線「なり」と文法的意味・用法が同じものを、次の1〜5の中から一つ選べ。

船人の見るに、海のなかに浮きて漂ふ者あり。これを引き上げて見れば、縛られたる僧なり。船人、大きにあやしみて、「何人ぞ、かくは縛られたるは」と問へば、「われはしかじかの者なり。盗人にあひて縛られて落とし入れられたるなり」と答ふ。

（一部省略）

1　太政大臣になりたまふ
2　容体ほそやかにあてなりければ
3　おのづから宿世宿世に人となりたちぬれば
4　侍従の大納言の御女、なくなりたまひぬなり
5　またなくあはれなるものは、かかる所の秋なりけり

第12講　PART4　確認問題

①「一人当千のつはものなり。」の傍線部の助動詞の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　推定　イ　推量　ウ　伝聞　エ　断定　オ　完了

② 波線部が伝聞の意味を表す助動詞として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　須磨になりぬ。
イ　家どもの、物はかなげなるに、柴垣うちしつつ、…
ウ　旅人の舟どもうかがふなる白波の寄り来る舟など繁しなど…
エ　慌しく急ぎ過ぐるなるべし。
オ　緑の松の年深くて、浜風になびきなれたる枝に、…

③「あらぬなめり。」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　打消の助動詞「ず」の連体形＋推定の助動詞「めり」の終止形
イ　断定の助動詞「なり」の連体形＋推量の助動詞「めり」の終止形
ウ　推定の助動詞「なり」の連体形＋推量の助動詞「む」の已然形＋完了の助動詞「り」の終止形
エ　打消の助動詞「ず」の已然形＋推量の助動詞「む」の已然形＋完了の助動詞「り」の終止形

④ 傍線部が他と異なるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

年一六七ばかり（ア）なるが、薄化粧（うすげしやう）してかねぐろなり。わが子の小次郎が齢（よはひ）ほどにて、容顔（ようがん）まことに美麗（びれい）（イ）なりければ、いづくに刀を立つべしとも覚えず。「そもそもいか（ウ）なる人にてましまし候ぞ。名のらせ給へ。たすけ参らせん。」と申せば、…

⑤ 「奥山に猫またと言ふものありて、人を食らふなると、…」の傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　人を食べようとした

イ　人を食うそうだ

ウ　人を食ったらしい

エ　人を食ってしまった

第12講　PART4　解答

問四　ニ　断定　　ホ　断定

問五　D

問六　ウ

問七　a　1　　b　4

問八　ホ

問九　A　⑥　　B　②

問十　5

第12講　PART4　確認問題　解答

〔解説〕

① 「なり」の助動詞は、「断定」・「伝聞・推定」のどちらかである。傍線部の上の「つはもの」は体言であることから、体言と接続する断定の助動詞だとわかる。よって、エが正解。

② 伝聞の「なり」ということは、上が終止形（ラ変型は連体形）になっているものを探す。そうすると、ウ「うかがふ」が四段活用で、見た目だけでは終止形か連体形かは不明であるが、他の選択肢に終止形が明らかにないため、ウが正解になるのがわかる。ちなみに、アは動詞、イは「はかなげなる」で一語の形容動詞、エは「過ぐる」が「過ぐ」の連体形なので、断定。オは、「よれよれになる」という意味の動詞「萎（な）る」。

③ 「なめり」の形の「な」は断定の助動詞「なり」の連体形の撥音便（「ん」の無表記）。「めり」は推定の助動詞で終止形（ラ変型活用語は連体形）に接続する。傍線部の上の「あらぬ」は連体詞。よって、イが正解。

④ アは助詞に接続しているので断定の助動詞「なり」である。イは「美麗なり」、ウは「いかなり」の形容動詞の活用語尾。よって、アが正解。

⑤ 選択肢と文脈より、「なる」は動詞「食らふ」の終止形に接続している伝聞の助動詞。「〜そうだ・〜とかいう」という意味になる。よって、イが正解。

〔解答〕

① エ　② ウ　③ イ　④ ア　⑤ イ